

大阪の 社会福祉

2019.6

769

The social welfare
in OSAKA

- 元気通信 阿倍野区常盤地域から
STOP!高齢者の引きこもり
GW期間中の取組みが大成功
- 居場所いろいろ CAFE JIN(都島区)
誰もが寄りやすい・働きたいカフェ
わかりやすい福祉の入り口
- 市社協 〈特集〉参画と協働のための地域福祉ガイドブック④
「見守り活動のちよこ」をお助けブック
- 此花区 認知症への理解とおおらかな心を持って
てへべろキッチン
「まちがいが許されるレストラン」
- こんなことやっています!私たちの施設から
社会福祉法人愛生会 指定障がい者支援施設 豊生園
地域に開かれた障がい者施設をめざして

8

6

5

3

2



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

http://www.osaka-sishakyo.jp



▲「回覧板、掲示板をみたよ」とやってくる地域の人たち

「みなさんの協力で実現できた」と
スマイルプラスの明野明子さん

平野区

買い物に困る人を救い、 地域交流を促す

スマイル八百屋さん

高齢化がすすむ中で、日常のちょっとした困りごとに対する「生活支援」の取組みが各区で広がっている。区社協では生活支援コーディネーター(生活支援体制整備事業)が、地域のニーズ・特性を踏まえて、さまざまな人・団体の思いや強みをつなぎながら、こうした取組みを推進する役割を担っている。今回は平野区で始まった、移動や買い物の困りごとに対する新たな活動を紹介する。

(2・3面に続く)

HB

1時間仕事をした
ら、そのうち30分は
探し物をしていると
友人が言う。全く同
感で、年は取りたくないな
と、つくづく思う▼春先に梅
の木に来る鳥はと言われて、
私たちはすぐにウグイスを思
い浮かべる。しかし、我が家
の庭先に来るのはウグイスで
はなくメジロ。ところが、ウ
グイスが刷り込まれていて、
そのメジロがなかなか出てこ
ない▼同じように、我が家の
庭で思い浮かばないものに、
4月の半ばに咲く白い花の名
前がある。3メートルほどの
木に白い花があふれるほど咲
くのだが、その木の名前がい
つもうしても思い出せない
。そんな時、先の友人と松
江に行った▼小泉八雲の旧宅
の庭に、その花が咲き乱れて
いて、受付のおばさんにまず
尋ねたら、穏やかな声で「あ
れは利休梅と言います」と、
欲求不満を解消してくれた。
無粋ではあるけれど、帰って
すぐに木に名札をぶら下げた
▼ところで松江に行ったの
は、学生時代一緒にポランテ
ィア活動をしていた仲間が弱
っているから、友人が知らせて
くれたから。いろんなことは
忘れても、こんな時に誘って
くれる仲間の温かい気持ちは
いつまでも忘れられない。(石)

介護保険でなく インフォーマルな形で

介護センター「スマイルプラス」は、月2回、11時～13時の間、事業所前のスペースに「スマイル八百屋さん」を開いている。同事業所は、昨年、平野区の喜連東から平野西地域へ移転して「新しい地域でも親しまれる存在になれるよう、喜んでもらえることをしたい」という願いがあった。

同センターの居宅介護支援管理者・明野明子さんが、周辺環境をリサーチしていると「大型スーパーまでは距離が遠く、足が悪いので買い物物が不便。おまけに銭湯に行くにも1時間かかる」という声を聴く。ヘルパーに買い物物を頼んだり、デイサービスで入浴したりするためだけに「介護サービス認定」を受けている人もいた。

「介護保険でなく、インフォーマルなかたちで改善できないものか」と考えていた矢先、八百屋の移動販売による成功事例を聞く機会があった。「平野区でもやりたい」と思った明野さんは、早速、平野区社協の生活支援コーディネーターの角田達哉さんとともに、平野西地域の

今岡敏夫会長、坂本環地域福祉活動コーディネーターを訪ねてラシの回覧やポスター掲示などの協力を得ることができた。

新鮮な旬の野菜が 安い!

3月6日、第1回目目がオープン。大根80円、小松菜50円、白菜50円、卸売りの新鮮な野菜が並ぶ。レジには、この日とばかりカゴ一杯に詰め込んだ買い物客の長い列ができた。提携する青果店のスタッフも張り切り

「野菜の冷凍の仕方や、おいしい料理の作り方を伝えたい」と笑顔で対応。対面販売ならではの味わいだ。「ここなら近いから来られる」「今度はいつやるの?」と大好評で、翌4月からは開催日を月2回に増やすことに。「独居高齢世帯や高齢夫婦世帯が増えているなか、ありがたい取組み」と平野西連合馬場西町会長、紫藤勝次さん。

地域の人をはじめ、近隣の企業に勤める人、スマイルプラスのデイサービス利用者も、買い物を楽しむ。「若年性認知症の方がいきいきとした表情になって嬉しい」と明野さん。このことが口コミで広がり、認知症対応型デイサービスの3事業所から買い物ツアーを組んで来た



おいしく食べながら、会話も弾む

5月4日の計2回開催され、1回目の参加者は約100人にもなった。参加費は100円で、たこやきのほか、1回目は餃子、2回目はやきそばが用意された。参加者は70～80歳の高齢者の方々が中心だが、中には親子三

また、地域福祉コーディネーターの熊野寿子さんは「月2回の食事サービスや、こともと高齢者の方々の世代間交流会など、地域の方が安心して過ごせるよう、普段から工夫しながらさまざまな取組みをおこなっています」と話す。高齢者の方々を含め、みんなが住みやすい地域をめざし、意欲的に活動する常盤地域の今後の展開にさらなる期待が膨らむ。

元気通信 阿倍野区 常盤地域から STOP! 高齢者の引きこもり ～GW期間中の取組みが大成功～

ゴールデンウィーク真っ只中の5月4日、阿倍野区にある常盤西会館に続々と人が集まっていた。扉を開けると、たこやきのこんがり焼けた香りが漂ってくる。この日は、「ゴールデンウィークは西会館へ行こう」と題したイベントが開催されていた。

来られた方にはまずお茶がふるまわれ、あちこちでおしゃべりの花が咲く。その裏では、常盤地域活動協議会・連合女性部のメンバーが大奮闘。3台のたこやき器を駆使し、抜群のチームワークで次々と焼いていく。ある程度のストックができると、参加者に提供され、たこやきパーティーがスタート。食後はクイズ大会などがおこなわれ、楽しい時間を過ごしていた。



運営メンバーのチームワークは抜群!

このイベントは今回が初開催で、発起人の常盤連合振興町会女性部長の森本由美子さんは「長い連休にもかかわらず引きこもりがちな高齢者の方々が、自宅から外に出てリフレッシュしてもらおうのが目的。認知症の予防も期待できると思います。運営メンバーはとても協力的で、アイデアを実現する方法を一緒に考えてくれるので助かります」と語る。

世代の参加もあった。「イベントに参加すると仲間ができるのがうれしい」「生活にハリが出る」と大好評。また、「常盤地域は都会の真ん中にあるのにもかかわらず、地域のつながりが強いので住みやすい」という声もあった。



安くて新鮮な野菜・果物が並び

何でも相談して もらえる存在に

「オリンジチーム」が認知症の人と同行して来ることもある。買い物袋を運ぶ高齢者を手伝っているのは、定年退職後の仲間づくりとして、昨年10月に区社協が中心となり始めた「The男組」。角田さんが、袋いっぱい買い物している高齢者の方がたくさん来られていることを紹介すると、メンバーの方から「手伝おうか」と声が挙がり、実際に自宅付近まで買い物袋の運搬を手伝った。「男組さんと若年性認知症の利用者さんで夏には屋台を出して一緒に楽しめればいいな」と明野さんは期待する。

スマイル八百屋さんが定着し、地域の交流の場の一つとなれば、「ここに行けば、介護の相談もできる」ことを知ってもらえる。同時に、認知症の理解を地域に広めていくこともできる。

「介護事業所が地域の社会資源のひとつとして、困難を抱えている方々が安心して暮らせるお手伝いをしたい。めざすのは、地域に何か起きたときに一緒に支え合える関係」と明野さん。八百屋の次は、事業所内の浴室を開放して、介助の必要のない高齢者を対象にした銭湯のような場をつくる計画がある。「人手不足の中、私も含め職員がどこまで協力できるかが課題だが、社協さんと相談してチャレンジしたい」と今後の思いを語った。

居場所 いろいろ

-10-

地下鉄谷町線「都島」駅から東へ徒歩2分、総合医療センターのある都島本通の一角に1年前、NPO法人真成会が「CAFE JIN」をオープンした。

店内は、車いすやベビーカーをそのままテーブルに寄せてくつろぐことができ、移動にも余裕があるバリアフリー設計だ。杖をつく常連の高齢者やひと休みしたい子連れマグループなどで賑わうほか、地域のサークルや市民活動者などが貸し切り（無料）でワークショップなどを開くこともある。また、区内の障がい福祉情報を揃えた「情報発信基地」としても機能している。このほか、都島中学校の生徒を「職場体験」として受け入れ、障がい福祉の啓発にもつなげている。

カフェを開いた理由を同法人の理事長・箱田成司さんはこう話す。「障がい者の作業工賃が低すぎるのは課題。解決するひとつの手立てとして、料理が得意な職員・石飛聡さん（マスター）とカフェの可能性に期待した。結果、出会いが広がった」



左から理事長の箱田さん、スタッフ(施設利用者)の芝野さん、マスター(職員)の石飛さん

誰もが寄りたい・働きたいカフェ

～わかりやすい福祉の入り口に～

CAFE JIN

- ・主催：NPO法人真成会
- ・日時：月～金曜日9：00～16:00(原則)
- ・場所：ワークセンターJIN 都島区都島本通3-16-3パルハイツ1階
- ・対象：どなたでも(貸し切り要相談)
- ・料金：注文のメニュー料金が必要
- ・問い合わせ：06-6180-4751

障がい者がやりがいを持っていて働き、地域のさまざまな人たちが立ち寄る居場所は、これからの「福祉のありかた」をわかりやすい形で示す入口の役割を果たしている。



福祉施設とは思えないオシャレな空間

インテリアも料理の味も値段も妥協せず、福祉の閉鎖的な雰囲気をつぶす。箱田さんのねらい通りに、箱田さんが教鞭をとる専門学校で「ホントに福祉施設？」と驚いた。

レギュラースタッフの芝野佑馬さん(利用者)は「忙しいのがうれしい。接客が楽しい」とこやかだ。「お客さんの名前を覚えて必ず声をかけている」と箱田さんは称賛する。他の職場が合わなかったスタッフが多いが、ここで続いている理由は「本音で言い合う、体育会系のコミュニケーション」だと箱田さんは分析する。

見守り活動の ちよこつとお助けブック



1 マンションや
集合住宅での見守り

マンションの備え付けの電話を使って安否確認(北区)
※北ブロック見守りサミットの報告事例

地域や
マンションでの
つながりをつくりたい

参画と協働のための
地域福祉ガイドブック④

見守り活動の ちよこつとお助けブック



大阪市地域福祉活動推進委員会
(社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会)



冊子のPDFデータは
市社協HP内に掲載

住民同士の
あいさつを
広げたい

「災害時や
緊急時が不安」
という声がある

大阪市地域福祉活動推進委員会(事務局:市社協)では、具体的な地域福祉実践を推進するための手引書として、平成30年3月に、「①身近な地域で気づく・つながり・話し合う」「②わかもの×地域」「③社会福祉法人の地域における公益的な活動」の3つのテーマで「参画と協働のための地域福祉ガイドブック」(以下、ガイドブック)を作成しました。

このたび、4冊目として、各区・地域で展開されている住民同士の支え合いとつながりづくりの活動の一つである「見守り活動」について取りあげた「見守り活動のちよこつとお助けブック」を平成31年3月に発行しました。地域のみなさんや福祉専門職の方が「見守りのかたち」を一緒に考える際に活用していただけるよう、その内容を紹介します。

気づく・つながり・話し合う

「見守り」は、ご近所での一人暮らしをしている高齢者の話

し相手や専門職が関わる見守りなど、さまざまな形態があります。生活課題を抱えた際に、福祉サービスを利用しながら生活したとしても、すべてを福祉サービスだけで支えることは容易ではないため、地域住民が実際にできる範囲での見守り活動を積み重ねていくことが大切です。地域内のアンテナ数を増や



4 地域で暮らす障がいのある人や事業所との関係づくり

障がい者事業所による高齢者への配食(西区)



2 災害時も想定した話し合いの場

「西成つながり名簿」を活用したワークショップ(西成区)

5 区役所と見守り相談室の連携

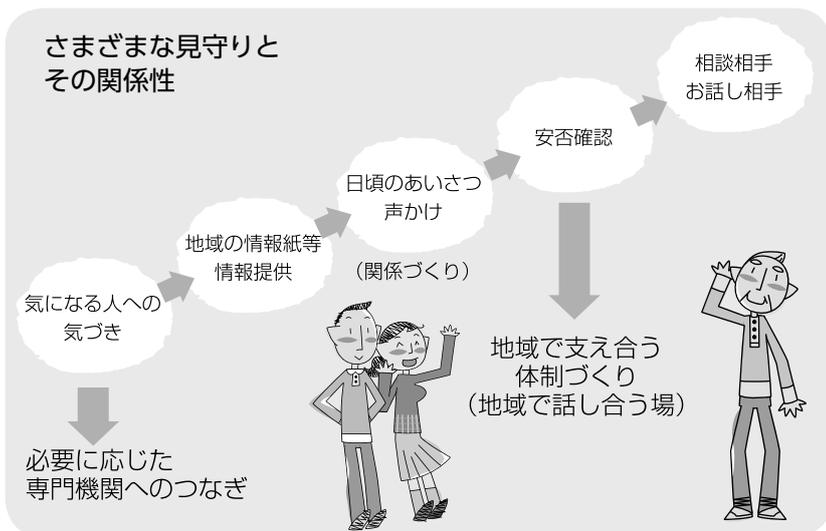


地域の特色に合った取組み支援につなげる(城東区)



ネットワーク委員会表彰式(港区)

3 活動者の励みにつながる取組み



すことで重層的な支え合いが構築され、安心・安全なまちづくりへとつながってまいります。

このガイドブックでは、現在活動をされている方が直面しやすい悩みに対してどうすればよいか、またこれから始めようと思われている方の活動のきっかけにつながるよう、ガイドブック①にまとめた、「気づく」「つなぐ」「話し合う」の3つのキーワードのもと、課題解決に向けた見守り活動の事例やポイントなどをまとめました。

「見守り活動」の道しるべに

このガイドブックでは、さまざまな見守り活動に関する取組みとして、5つの活動事例を収録。①マンションや集合住宅での見守り活動をテーマに、高齢化や災害時の不安など共通する課題への対応を考えた北ブロック見守りサミットの取組み(北区、都島区、福島区、淀川区、東淀川区)②災害時も想定したつながりのない人を知るための気づきを促すワークショップの開催(西成区)③今後の活動の励みとなることをねらったネットワーキング委員会表彰式(港区)④各地域の見守り活動者が地域内の障がい者・児童施設で研修・交流会を開催して相互理解を深める取組み(西区)⑤区内の困りごとや気づきを踏まえた区役所と見守り相談室の連絡会議(城東区)を取りあげ、それぞれに「困りごとやねらい」「取組みの内容」

「効果」「ちよこつとアドバイス」をまとめています。

「ちよこつと気になるな」という思いを大切に

地域でおこなう見守り活動では、日頃のあいさつやコミュニケーションで「変化」をキャッチして身近な相談先につながる、また一人で抱え込まず、地域の専門機関や見守り相談室と連携を図るなど情報共有をすすめることも大切です。

このガイドブックは、地域のあらゆる住民が支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティの育成、また公的な福祉サービスと協働して、助け合いながら暮らすことのできる地域共生社会の実現に向けた地域づくりの「ちよこつとお助け」になることをねらいに作成しています。

作成に携わった市社協地域福祉課の奥保貴永(おくぼ たかひさ)主査は「現在、見守り活動をされている方々に活用していただくとともに、新しい担い手となっていたり、方々への見守り活動のきっかけづくりの一助となれば」と話します。

ガイドブックは、市社協ホームページ(トップページ)↓いろいろ知りたい↓調査研究・報告書コーナーからご覧ください。

認知症への理解とおおらかな心を持って てへぺろキッチン〜まちがいが許されるレストラン〜

4月5日、海辺にあるレストラン「Garden Terrace舞洲キッチン」の一面を使用し、期間限定のイベントとして「てへぺろキッチン〜まちがいが許されるレストラン〜」が開催された。このイベントでウェイター・ウェイトレスを務めるのは、認知症の当事者の方々。お客さんと交流することで認知症への理解を促進するとともに、さまざまな場面の対応に対して寛容な地域づくりを推進することを目的に取り組みました。

**当事者の方々が
ウェイター・ウェイトレス。
まちがってもOK**

「てへぺろキッチン」では、



注文を聞くと、和やかに自然と笑顔が生まれる

認知症の当事者の方々が注文をとり、料理の提供や配膳等を担当。お客さまを席に案内し、スタッフが見守るなか、まずは水とおしぼりを提供した。シェフ

がつくる本格的な料理はコースになっており、食前のジュースやメインの料理が選べるので、注文を伺う必要がある。注文を



工夫されたオーダー表

書き留めるオーダー表には、てへぺろキッチンならではの工夫。当事者の方々の負担を軽減するため、提供する順番どおりに記載し、時にはお客さん自身に直接記入してもらっている場面もあった。また、お客さんには認知症の方へのサポートマニュアルを配付。認知症のある方



ウェイター・ウェイトレスとして活躍

ともにこのイベントを協働開催した。平成29年9月頃、中川さんは今回のイベントと同じ趣旨の「注文をまちがえる料理店」にSNSやネット等で情報に触れ、生き生きと

に接することの少ない方に、どのようにサポートすればよいかを伝える機会とした。料理ができあがると、当事者の方々はスタッフの助けを借りながら各テーブルへ運んだ。サラダには、ドレッシングをかけるサービスも実施。料理を運ぶとお客さんから声をかけられることもあり、会話が弾んであちこちで笑顔が生まれていた。プレイベントでの練習を経て当日を迎えた当事者の方々の堂々としたウェイター・ウェイトレス姿が印象的だった。

**当事者には生きがいを
周囲の人々には可能性を
感じてほしい**

「てへぺろキッチン」の発起人は、特別養護老人ホームラヴィータ・ウーノ（此花区）の中川春彦さん。同じ社会福祉法人の小規模多機能型居宅介護と認知症高齢者グループホームと

働く当事者の方々の姿に感動し、大阪でも開催したいと考えた。

中川さんは「認知症になると、疾患のことばかり考える不安な毎日になりますが、このようなイベントがあれば目標ができ、生活にもハリが出ます。また、周囲の人々には、認知症であってもできることがたくさんあることを知ってほしいですね」と話し、「継続的に開催することはもちろん、他の法人との協働開催も視野に入れていきます」と今後の展望についても語った。今回のイベントに共催として関わった此花区社協の鹿島諒さんは「中川さんのお話を聞き、協力してくれる企業やボランティアグループをつなぐなど、主に協力者を増やす場面で相談に乗りました。今後はより多くの施設等とつながりながら、此花区全体に、てへぺろキッチンの輪を広げていきたいです」と話す。

「てへぺろキッチン」をきっかけに、認知症への理解と、おおらかな心が広がることを期待される。

次回は今年度の10月上旬に開催予定。詳しい内容は今後作成される「てへぺろキッチン」のfacebookページをご覧ください。

市社協 みなさんの善意を 社会福祉の発展に

4月15日、キリンググループ労働組合協議会から、車椅子5台を寄贈いただきました。同会では、社会貢献活動の一つとして、組合員の募金による『愛のキャンパ』を実施し、毎年、地域の施設や団体に物品の寄贈活動をおこなっております。

贈呈式では、キリンビール(株)の芹澤直靖さん(写真中央)とメルシャン(株)の日高瞳さん(写真左)に、市社協の浅井俊之(写真右)から、感謝状

が手渡されました。寄贈された車椅子は、大阪市

老人福祉施設連盟を通して、市内の社会福祉施設において、有効に活用させていただきます。



介護予防ポイント事業への参加者を募集します！

事前に研修を受けて登録をした65歳以上の方が、特別養護老人ホームなどの介護保険施設や保育所でポイントの対象となる活動をおこなった場合に、ポイントが貯まり、貯まったポイントは換金することができる事業です。(年間換金上限あり)

【登録時研修日程】

6月18日(火)10時~12時	大阪市立社会福祉センター(天王寺区)
6月19日(水)10時~12時	特別養護老人ホーム ビーナスホーム千島園(大正区)
6月22日(土)14時~15時	介護老人保健施設 大今里ケアホーム(東成区)
7月2日(火)13時30分~15時30分	港区老人福祉センター
7月9日(火)14時~16時	介護老人保健施設 錦秀苑(住吉区)
7月10日(水)14時~16時	介護付有料老人ホーム リュミエール加島(淀川区)
7月16日(火)10時~12時	大阪市立社会福祉センター(天王寺区)
7月23日(火)13時30分~15時30分	特別養護老人ホーム からまつ苑(都島区)
8月6日(火)13時~15時	介護老人保健施設 オアシス(平野区)
8月9日(金)13時30分~14時50分	特別養護老人ホーム いわき園(住之江区)

申込・お問合せ先:市社協 福祉事業課まで TEL 6765-5610

風をよむ

いて、認知症に対するエビデンスに裏打ちされた医学的な治療や予防は未確定なのだという。新大綱案では、治療や予防法の研究開発の強化をは

か、認知症に対するエビデンスに裏打ちされた医学的な治療や予防は未確定なのだという。新大綱案では、治療や予防法の研究開発の強化をは

か、認知症に対するエビデンスに裏打ちされた医学的な治療や予防は未確定なのだという。新大綱案では、治療や予防法の研究開発の強化をは

認知症対策の「予防」を 福祉的な予防でとらえること

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 助教 清水由香

今年5月に政府は認知症対策の新大綱案を示した。この新大綱案のポイントの一つは「予防」と認知症発症割合の削減数値目標を設定したことである。ここでいう予防とは、狭義の「疾病予防」としての予防である。認知症予防、というタイトルのテレビや健康雑誌など、つい筆者も情報をチェックして、それを真似しようとする市民の一人である。だが、現代医学にお

ける他、予防としての生活習慣の改善を推進するとまとめられている。話題は変わるが、平成10年から23年まで自殺者3万人を超えていたが、自殺対策基本法や自殺総合対策大綱を策定し、その後1万人台が目前となる成果をあげることができた。そのようなことから、認知症の予防を一つの柱にした新大綱案に期待をしたいところである。

認知症になった人が、落第者になって自信をなくしてしまふ」という意見が伝えられたそうである。政府が認知症発症者数の削減目標を打ち出した背景には、社会保障費の抑制がある。国は国民生活を財政基盤の確保という観点から守る役割があるが、認知症になりながらも安心、安全な生活を地域で送ることができるよう環境づくりも同時に必要である。認知症施策推進総

指定障がい者支援施設・豊生園は、生野区のメインストリート、勝山通り沿いにあり、主に障がいの施設入所と生活介護(日中活動)短期入所サービスを中心に提供しています。母体である社会福祉法人・愛生会は、平成9年、一般的にみられるオーナー法人ではなく、区内の篤志家、地域振興会、各種団体・企業など地域の多くの皆様方のご支援・ご協力によって設立されました。以来、地域に根ざした取組みを展開しています。

豊生園は「どんな障がいがあっても、主体的に普通の生活を送る」ことを基本方針

また、専門家を招いて、ストレスなく日常動作をおこなうために「ファシリテーション・ボールメソッド」や「臨床動作法」を導入し、効果を上げています。選択肢が多いこと、入所・通所問わず、利用者さん同士の交流の機会をつくることを重視しています。

1階の喫茶工房「なごみ」では、利用者さん自身が、陶芸や沙織織、豆腐など作品を商品として販売しています。中でも豆腐づくりは、乾燥大豆を洗うところから、パッケージングまで一貫しておこなっているのが特色です。毎年、生野まつりや地域のイベントで出張販売をして、地域の方に喜

こんなこと
やっています!

私たちの施設から

社会福祉法人 愛生会
指定障がい者支援施設 豊生園

25

地域に開かれた障がい者施設をめざして

とし、多様な障がいに対応できるよう、施設内の細部に工夫を凝らしています。例えば、身体に麻痺があっても座ったまま浴槽に入ることのできる浴室、排せつ行為の自立を助ける「ファンレストテーブル」を設置したトイレ、3・4・5階のサロンには、食事や起立、洗顔など日常動作の負担を最小限におさえるため、テーブルや椅子、洗面台の高さを2~3種類設定しています。

当園の一番の特色は、充実した生活介護(日中活動)です。陶芸、沙織織、豆腐、喫茶などの生産・創作活動のほか、音楽や書道、パソコンの教室など、利用者さんの要望に沿い、月曜日から金曜日まで活動しています。

んでいただいています。

課題は、地域との双方向の関係性をつくることです。「なごみ」を地域に開放したり、各工房へのボランティアに来てもらったりすることを通じて、地域との相互交流を深め、障がいに対する理解を広げていきたいと考えています。今後も、本当の意味での地域に開かれた施設をめざしてまいります。



豊富なメニューの
日中活動(豆腐工房)

住所 〒544-0033 大阪市生野区勝山北4-14-28
Tel.06-6716-1202 Fax.06-6716-1203
HP <http://www.fukushi-aiseikai.or.jp/houseien/index.html>

案内

「福祉の就職総合フェア2019 in OSAKA」を開催

大阪府内にある福祉関係の約260法人が参加。主催は大阪府(受託者/大阪府社協・大阪福祉人材支援センター)で、大阪市・堺市・東大阪市の各市社協等が共催。

日時/7月20日(土)・12時~16時

▼場所/インテックス大阪2号館(最寄駅)コスモスクエア駅徒歩約9分・トレードセンター前駅徒歩約8分・中ふ頭駅徒歩約5分

▼対象/大学・短大生、専門学校生、既卒・一般求職者、高校生など

▼内容/個別面談コーナー(法人・事業所の担当者と直接面談)、施設見学・職場体験の受付(関心のある福祉・介護の職場体験の受付・登録)、各種相談コーナー(中高年層者・障がいの者・ひとり親家庭就労相談コーナー・大阪府第三者評価コーナー・大阪福祉人材支援センター求職相談コーナー・職能団体等による相談コーナー等)

※詳細HP、大阪福祉人材支援センター

(<http://www.osakafushakyo.or.jp/center/>)を閲覧ください。

▼問合せ ☎06-6762-9006

【時代】

手話入門

右手の親指を左手にあて、人差し指を前に倒す。

体の前で両手の手のひらを向かい合わせ、少し下げる。

立ちどまらない保険。 MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心 GK

1人1万円の保険 1000円までの保険 1人1万円の保険

www.ms-ins.com